

オフィスワーカー意識調査からみるノンデスクワークへの 関心

人手不足問題の解決に向けて（第5回）



2025年1月8日

1. はじめに

ザイマックス不動産総合研究所（以下、ザイマックス総研）では労働市場の人手不足に問題意識を持ち、2023年5月から本シリーズ「人手不足問題の解決に向けて」を公表してきた。第1回（*1）から第2回（*2）にかけて、職業を「デスクワーク」と「ノンデスクワーク」に分解し、今後はノンデスクワーカーの労働需給ギャップが大きくなること、つまり人手不足問題の核心がノンデスクワークにあることを指摘した。

解決策の一つとして、生成AIの業務代替などにより需給ギャップの緩和が見込まれるデスクワーカーが、ノンデスクワークへ移動することが考えられる。しかし、長らく終身雇用文化であった日本企業のデスクワーカーにおいて、現状そのような動きは一般的ではない。

そこで、全国のオフィスワーカー4,738人を対象に、ノンデスクワークへの就業に対する興味度やその理由、仕事の価値観などを問う調査（*3）を実施した。本レポートではその結果について、特に年代に焦点を当てて分析を行い、仕事や働き方の新しい潮流を探ることで、人手不足問題を考えるうえでの材料を提示したい。

*1 2023年5月31日公表「人手不足問題の解決に向けて（第1回）～ノンデスクワーカーの実態と課題～」
https://soken.xymax.co.jp/2023/05/31/2305-labor_shortage_1/

*2 2023年12月1日公表「人手不足問題の解決に向けて（第2回）～ノンデスクワーカーはどれだけ不足するのか～」
https://soken.xymax.co.jp/2023/12/01/2312-labor_shortage_2/

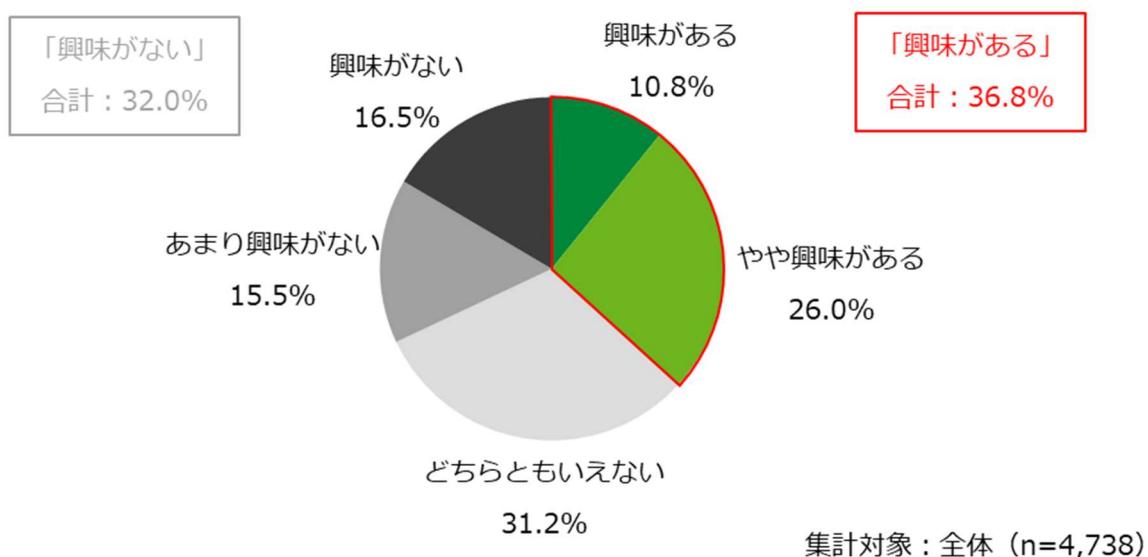
*3 2024年12月9日公表「大都市圏オフィスワーカー調査2024～ワーカーの働き方と価値観の変化を捉える～」
https://soken.xymax.co.jp/2024/12/09/2412-worker_survey_2024/

2. ノンデスクワーク就業への興味度

現在デスクワークに従事している全国のオフィスワーカー4,738人に対して、将来的にノンデスクワークに従事することへの興味度を聞いた結果、「興味がある（「やや興味がある」と「興味がある」の合計）」は36.8%と、「興味がない（「あまり興味がない」と「興味がない」の合計）」（32.0%）を上回った【図表1】。

また、31.2%は「どちらともいえない」と回答した。現状、デスクワーカーがノンデスクワークへの転職を検討する機会はあまりなく、判断の材料も少ないことが背景にあると考えられる。

【図表1】将来的にノンデスクワークに従事することへの興味度

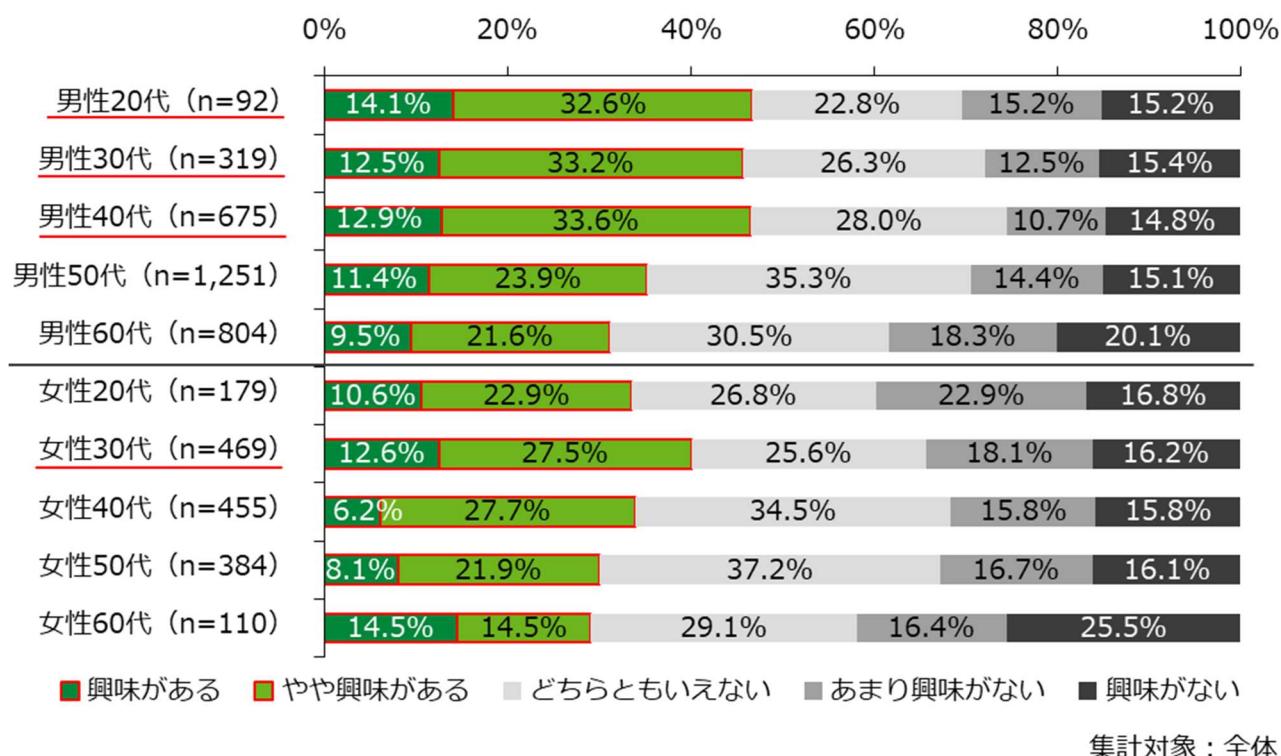


設問全文：労働人口減少や健康寿命の延長により、60歳以降も働き続ける人が増えています。なかでもノンデスクワーク（※）は、AIなどで効率化が進むデスクワークと比べて従事者不足が深刻化し、労働需要が高まると予測されています。需要が高まると処遇改善が見込まれ、米国では一部ノンデスクワークとデスクワークの賃金の逆転といった現象もみられています。上記のような社会情勢を踏まえ、将来的にノンデスクワークに従事することに興味はありますか？お気持ちに最も近いものをお選びください。
 ※ノンデスクワーク…原則としてデスクではなく様々な「現場」で働く職業。具体的には、建設作業員、介護サービス従事者、警備員、清掃員、ドライバー、配達員、ビル等管理人、商品販売員、飲食店店員、製造業における工場などの労働者、医師・看護師などの医療従事者、船舶・航空・鉄道などの運転者、農林水産業従事者など多岐にわたる。

この結果を性年代別に比較すると、20代～40代の男性で「興味がある」が5割弱と高い傾向がみられた【図表2】。また、女性では30代で40.1%と比較的高い傾向がみられた。第3章で詳述する興味度の理由（自由記述）では、ノンデスクワークに興味がある理由として「子どもを育てながら思い切り働きそう」「子どもの教育資金を考えると収入を増やすべき」といった意見もみられ、男女ともに子育て世代は比較的興味度が高いといえそうだ。

一方、50代・60代は男女ともに3割前後が「興味がある」と回答した。40代以下と比べて割合は低いものの、日本の人口構成からみれば人数は多いと考えられる。定年退職を間近に控えた年代のオフィスワーカーでも「逃げ切り」ではなく、定年後のキャリアとしてノンデスクワークを視野に入れる人が一定数いることが明らかになった。

【図表2】<性年代別> 将来的にノンデスクワークに従事することへの興味度



3. 関心の背景にあるもの

第2章で確認したとおり、将来的なノンデスクワーク就業に関心を持つワーカーはすでに一定数おり、特に若年層に特徴的な傾向である。こうした新たな価値観の兆しは、旧来的な雇用市場や仕事のあり方を変えていく可能性がある。そこで、第3章ではその関心の背景を探るため、約4,000件に上る「ノンデスクワークへの興味度」の回答理由（自由記述）を読み解いていく。

まず、「興味がある」の理由 1,454 件と「興味がない」の理由 1,124 件についてそれぞれ形態素解析を行い、名詞のみを抽出してワードクラウドによるビジュアル化を行った【図表 3】。出現回数が多い単語ほど大きく表示される。なお、文字色に意味はなく、「こと」「デスク」「ワーク」など、読み解きに無関係な単語は除外している。

興味がある理由で出現回数が多かった名詞は「経験」「健康」「自由」「将来」「不安」などで、そのほかにもさまざまな単語が幅広く使われている。一方、興味がない理由では「体力」が特に多く出現しており、体力面の不安がノンデスクワーク就業への抵抗感の一因になっていることがわかる。そのほか「自信」「経験」「不安」「労働」などが多く使われている。

両者を比較すると、興味がある理由には将来の不確実性を見据えた意識が読み取れる（将来、可能、定年、老後、今後など）のに対し、興味がない理由には過去を重視する安定志向が読み取れる（自信、経験、満足、好きなど）といえるかもしれない。同時に、「イメージ」「想像」「無理」などの単語から、興味がない理由として先入観が先立っている状況もうかがえる。

【図表 3】興味がある理由（左）と興味がない理由（右）に含まれる名詞のワードクラウド



次に、回答のローデータをそれぞれ読み解き、ノンデスクワークに興味があるワーカーと興味がないワーカーの意識や価値観を探っていく。特に今回、年代によって回答内容に傾向がみられたことから、「20代～40代」と「50代・60代」に分けて特徴を整理した。なお、付録として末尾にローデータの一部を抜粋して紹介しているので、あわせてご参照いただきたい。

【ノンデスクワークに興味があるワーカー】

仕事観・人生観

- AI や自動化技術の進展によってデスクワークの将来性に不安を抱き、選択の幅を広げるため、ノンデスクワークを含む新しい仕事や働き方を視野に入れている。
- デスクワークへのこだわりが薄い人や、現在の働き方に疑問を感じている人も多い。特に 20 代～40 代で「給料が上がるのであればどんな仕事でもしたい」「デスクワークが AI に取って代わられるようになった際に稼げるスキルを身につけたい」というフラットな姿勢が目立つ。
- 50 代・60 代は、定年退職後も働き続けることを前提に「デスクワークを続けたいが、需要が減っていくなら選択肢を広げないといけない」「そういった仕事でなければ就業できないと思う」など、若年層と比べるとデスクワークへのこだわりが強いものの、定年後の現実的な選択肢としてノンデスクワークを選ぶ意識がみられる。
- 年代を問わず「年金がどれだけ貰えるかわからない」「死ぬまで働かないといけない」といった悲観的な意見も多い。年金制度などの課題が顕在化するなか、生活防衛のためキャリアをシビアに考えている層がノンデスクワークに興味を持っているといえる。

ノンデスクワークについて

- 20 代～40 代では、「社会課題への貢献ができる」「人々の助けになることが実感できて、やりがいがありそう」「環境の変化が刺激になり退屈しなさそう」など、仕事自体に魅力を見出すポジティブな意見が目立つ。「アウトプットを求められるデスクワークより気楽に自分のペースで働けそう」「勉強しなくて良さそう」など、気楽さや融通が利くイメージも評価されているようだ。
- 50 代・60 代では、「最後まで社会に参画したい」「社会と関わりを持ち続けたいのと体力維持のため」「新しいことを覚えて働くことは若さを保つために必要」など、ウェルビーイング（肉体だけでなく精神的・社会的に満たされた健康な状態）を意識した意見が多い点が特徴的である。
- 具体的に就きたい職業を挙げる回答もみられ、多いのは **ドライバー、接客業、医療関係者、介護士**などであった。
- 都心部に集中するデスクワークと違い、全国どこでも働ける点も評価されている。「**定年後も自宅近くで働けそう**」「**毎日出勤するのではなく地方都市などに移り住みながら働きたい**」などの意見があった。翻って、デスクワークに対しては「**通勤時間をかけて出社することに意味を感じない**」といった指摘もみられた。コロナ禍を経て長時間通勤に対するワーカーの拒否感は相当高まっており、ノンデスクワークの優位性の一つになっている。

【ノンデスクワークに興味がないワーカー】

仕事観・人生観

- 現在の仕事や働き方に満足しており、変化を求めない現状維持の志向が強い。
- 20代～40代では「**ここまで将来を考えられていない**」「**このままでも何とかなりそう**」「**FIREしたい**」など、将来への無関心・楽観的なスタンスがみられる。「**デスクワークのすべてをAIで対応できるとは思えない**」など、興味がある層と比べると社会の変化に対する危機感はあまりない。
- 50代・60代ではある程度キャリアを築いている人も多いため、「**経済的にここまでして働く必要はない**」「**65歳には引退したい**」など、そもそも働く必要性を感じていない人が一定数いる。働き続けるとしても、「**自分のスキルと人脈に自信があり、今のままの生活を続けたい**」「**デスクワークでまだまだやらなきゃいけない仕事がある**」など、現在の仕事へのこだわりがみられる。

ノンデスクワークについて

- 年代を問わず、体力的・環境的な厳しさや低い対価を懸念する意見が多く、特に肉体労働や接客業に対する抵抗感の強さがみられた。なかにはアルバイトなどの経験に基づく意見もあるが、大半はイメージによるもの（「**働く環境が過酷そう**」「**カスハラが多そう**」「**低収入という先入観がある**」など）であった。
- 「**働くイメージがわからない**」「**自分にできるかわからない**」など、ノンデスクワークに関する経験や情報が乏しいがゆえに、興味を持つに至らない層も多いことが見受けられる。

なお、全体の3割を占める「どちらともいえない」の回答理由でも、「**イメージできない**」「**わからない**」を含む回答が大半を占めた。ノンデスクワークは仕事内容や働き方が多岐にわたり、具体的なイメージを持ちづらいという特徴がある。こうした情報不足からくる心理的障壁は、適切な情報提供が進むことで解消されていく余地があるといえるかもしれない。

4. おわりに

本レポートの分析から、「働く」に関する新たな価値観の兆しがみえた。終身雇用を前提としたオフィスワーク信仰は薄れ、若い世代を中心に、社会変革に即した現実的な選択肢としてノンデスクワークを検討する層がすでに一定程度存在することがわかった。

今後、こうした層の存在感が増していくれば、ノンデスクワークの社会的な位置づけが変わっていく可能性は十分にある。今回の調査で、ノンデスクワークに興味がある理由として「バイト時代から接客業が好きだったが、世間体を考えてオフィスワークを選んだため」という回答があつたが、この回答が示す価値観——現場仕事をオフィスワークよりも下にみるような風潮——は、過去のものになっていくかもしれない。

また、今回の調査では「副業・兼業」や「二拠点居住で働く・地方へ移住して働く」といった新たな働き方への関心も若年層ほど高い傾向がみられた。こうした多様な働き方・生き方が広がれば、完全な「転職」ではなく、デスクワークとノンデスクワークを少しずつ担うような流動的な働き方も広がっていくかもしれない。すでにノンデスクワークの業界ではスポットワーカーが活躍しているが、こうした流動的な働き方を支える制度や環境の整備が進めば、あらゆる人にとってノンデスクワークへの就業ハードルは下がっていくだろう。こうした社会変革の兆しを捉えるため、ザイマックス総研では引き続き調査研究を行っていく予定である。

付録：「ノンデスクワークへの興味度」の回答理由（自由記述）

【興味がある】20代～40代（抜粋）	
仕事の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>社会課題への貢献</u>ができる（男性／営業職） ・ 食料関係の一次産業（農業とか）が一番必要だと思うので。<u>生きるために必須な産業</u>に関わりたい（男性／技術系専門職） ・ コロナ禍で社会にとって<u>必要不可欠な仕事</u>が多いと認識するようになったから（男性／営業職） ・ 仕事の幅が広がりそう、環境の変化が刺激になり<u>退屈しなさそう</u>（女性／一般事務等） ・ <u>面白そう</u>な仕事がわかりやすい形でたくさんありそうだから（男性／技術系専門職） ・ 現場に行って業務をする方が、人々の助けになることが実感できて、<u>やりがい</u>がありそうだから（男性／総務・人事・経理） ・ <u>手に職</u>がつくから（女性／一般事務等） ・ バイト時代から接客業が好きだったが、<u>世間体を考えてオフィスワークを選んだため</u>（女性／営業職） ・ <u>シルバー人材センター</u>の人が地元で生き生きと働いているのを見て興味を持ったから（女性／総務・人事・経理） ・ 仕事場所を選ばずその分仕事を増やしたり<u>効率性</u>を上げることが自分次第で可能になると考えるから（女性／総務・人事・経理） ・ 体力に問題なければ、<u>より効率的に稼げる</u>かもしれない（男性／一般事務等） ・ 他業種を経験することで、<u>デスクワークでは理解できない実情</u>が理解できるから（男性／総務・人事・経理） ・ アウトプットを求められるデスクワークより<u>気楽に自分のペース</u>で働けそうに思う（男性／総務・人事・経理） ・ <u>勉強しなくて良さそう</u>だから（男性／技術系専門職） ・ 簡単そうだから（男性／技術系専門職） ・ <u>子どもを育てながら</u>思い切り働けうるので（女性／総務・人事・経理） ・ <u>生活スタイルに合わせて</u>仕事ができそうだから（女性／一般事務等） ・ 定年後も<u>自宅近く</u>で働けそう（男性／総務・人事・経理） ・ 60歳を過ぎたら、毎日出勤するのではなく<u>地方都市などに移り住みながら</u>働きたいので（女性／総務・人事・経理） ・ 嫌いな人とずっと近くで働かなくていいから（女性／一般事務等） ・ <u>自由</u>に働きたいから（男性／クリエイティブ系専門職） ・ <u>寝たきりにならないよう</u>に健康を意識した働き方には興味がある（女性／営業職）
デスクワークとの比較	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>AIに取って代わられない</u>ことが魅力的（女性／営業職） ・ 時代の流れで<u>事務職の需要が無くなっていく</u>ことに危機感を感じる（女性／営業職） ・ デスクワークがAIに取って代わられるようになった際にも<u>稼げるスキルを身につけたい</u>から（男性／事務系専門職） ・ 今後も安定した収入を優先したく、<u>デスクワークへのこだわりはない</u>ため（男性／一般事務等） ・ デスクワークが合っていなくて苦痛なので（女性／総務・人事・経理） ・ <u>通勤、退勤時間がもったいない</u>と感じているため（男性／営業職） ・ 現在の仕事は限られた業界の人間以外あまり会う機会がないため、<u>考え方が偏ったり内面が閉鎖的になつたり</u>しやすい。体を動かすこともないため、内向的になる面もある。もっと外に出てみたい気持ちが年々強まっている（女性／クリエイティブ系専門職）

老後不安	<ul style="list-style-type: none"> <u>年金がどれだけ貰えるか分からないので、働き口や働き方はなるべく多く収集しておきたい</u> (男性／営業職) 今後自分の職だけでは<u>食べていけない</u>と思うから (男性／総務・人事・経理) とりあえず、<u>死ぬまで働かないといけない</u>気がしている。生きるために働くに変わっている気がする (女性／一般事務等) <u>老後の資金も不安</u>だし、家にいるより働いている方がいいから (女性／総務・人事・経理) 将来のことを考えると視野に入れる必要がある (男性／経営・企画) 世の中が目まぐるしく変化する中で<u>定年まで働けるか不安</u>。生活していくために定年後も働く必要がある。<u>子どもの教育資金</u>を考えると収入を増やすべき。健康に不安を感じる。これらの理由から興味がある (女性／経営・企画)
条件次第	<ul style="list-style-type: none"> <u>給与が上がるのであれば</u>どんな仕事でもしたいと思う (女性／営業職) <u>専門性があり</u>、給与が上がるなら (女性／経営・企画) 超就職氷河期だったので 100 社以上応募しても書類落ち、求人自体が少なかった。現在も仕事があっても短期契約ばかり。<u>長く働ける職場</u>に行きたい (女性／一般事務等)

【興味がある】50代・60代（抜粋）

仕事の魅力	<ul style="list-style-type: none"> <u>社会と関わり</u>を持ち続けたいのと体力維持のため (男性／営業職) <u>健康的な生活習慣</u>が身につきそう (男性／技術系専門職) 直接体を動かすことは健康にも良く、また<u>対人の仕事</u>があると満足度も高い。一方で労働環境に不安はある (男性／経営・企画) 経験の無い業務でも、新しいことを覚えて働くことは<u>若さを保つために必要</u>だと感じるので、与えられた仕事にチャレンジしたい (女性／技術系専門職) 最後まで社会に参画したい (男性／総務・人事・経理) 人と接する仕事が好きだから (男性／その他) 仕事を終えたら<u>爽快感</u>がありそう。 小難しいことや面倒くさいこと、わずらわしさがなさそう (男性／経営・企画) ノンデスクワークは<u>成果が目に見えそう</u>で興味深い (女性／その他) <u>通勤時間</u>をなくせる (女性／一般事務等) <u>満員電車の煩わしさ</u>から解放される (男性／その他) より柔軟な働き方を実現することで<u>ライフの充実</u>を図ることができると思うから (男性／総務・人事・経理) <u>家の近く</u>でも働ける場所を探すことが可能になるから (男性／技術系専門職) <u>家族との時間が</u>さらに増えるため (男性／総務・人事・経理) 定年退職後も<u>自分のペースで長く</u>働き続けられそうだから (女性／総務・人事・経理) その日で完結する仕事がしたい (男性／その他) 仕事と<u>自由時間の両立</u>ができる (男性／営業職)
デスクワークとの比較	<ul style="list-style-type: none"> 事務的な仕事は今後どんどん <u>AI に置き換わる</u>と思うから (男性／総務・人事・経理) ずっとデスクワークなので<u>飽きた</u> (男性／総務・人事・経理) デスクワークの仕事に限界を感じているので。<u>人と話す機会が減りすぎ</u>ておかしくなりそう (男性／技術系専門職) <u>老眼</u>で細かい字がみにくくなつたから (女性／総務・人事・経理) 定年退職も近いので<u>通勤のわずらわしさから解放</u>できる職種に転職してもいいと考えているから (男性／営業職)

	<ul style="list-style-type: none"> <u>通勤時間</u>をかけて出社することに意味を感じない（男性／営業職） 身体を動かしたいから。デスクワークは<u>ストレス</u>が溜まる（女性／経営・企画）
老後不安	<ul style="list-style-type: none"> デスクワークを続けたいが、需要が減っていくなら<u>選択肢を広げない</u>といけない（女性／総務・人事・経理） <u>老後資金に不安</u>があるので働かざるを得ない（男性／その他） そういった仕事でなければ就業できないと思うから（男性／営業職） 高齢者は、ノンデスクワークに<u>従事するしかない</u>と思うから（男性／営業職） 事務の仕事ができなくなっても<u>身体を動かす仕事ならできる</u>と思うから（女性／総務・人事・経理） 60歳を超えて働くとthoughtたら、働き方に<u>どうこう言っている場合ではない</u>と思うので（男性／営業職）
条件次第	<ul style="list-style-type: none"> 特に今やっている仕事にこだわりがなく、<u>給料とのバランスがよければ</u>やってみたい（男性／営業職） <u>安定した職業なら</u>候補として考えたい（男性／技術系専門職） <u>長く健康的に</u>働く環境が手に入るなら興味がある（女性／一般事務等） <u>人間関係</u>が良好な職場であれば働いてみたい（男性／一般事務等）

【興味がない】20代～40代（抜粋）	
現状維持・リタイア志向	<ul style="list-style-type: none"> そこまで<u>将来を考えられていない</u>（男性／営業職） このままでも<u>なんとかなりそう</u>だから（男性／技術系専門職） 今の働き方で十分満足しており、<u>変化を求めていない</u>ため（男性／営業職） 今の働き方を大きく<u>変えるのはストレス</u>になりそうだから（女性／技術系専門職） デスクワークのすべてを<u>AIで対応できるとは思えない</u>（男性／総務・人事・経理） そんなに<u>長く働きたくない</u>（男性／技術系専門職） 60以降は<u>仕事をせず好きに過ごしたい</u>から（女性／技術系専門職） <u>FIRE</u>したいから（男性／営業職）
イメージできない	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な働いている姿が<u>想像できない</u>から（男性／技術系専門職） 今までオフィスワークしかしてこなかったから、自分に<u>できるかわからない</u>（女性／技術系専門職）
具体的な理由	<ul style="list-style-type: none"> <u>デスクワークが好き</u>だから（女性／総務・人事・経理） 専門職として働いており、当面はその<u>経験とスキル</u>を活かした仕事をしたい（男性／総務・人事・経理） 時間に縛られず<u>成果物を収める仕事をしたい</u>。効率的で給料も高いため。ノンデスクワークには全くそのようなところを望めない（女性／総務・人事・経理） ノンデスクワークは<u>在宅勤務ができない</u>から（男性／技術系専門職） 今の仕事では<u>自由に休憩時間をと</u>ことができるから（男性／技術系専門職） 販売員をしていたことがあるけど<u>デスクワークの方が100倍楽</u>だから（女性／一般事務等） <u>低収入という先入観</u>がある（男性／技術系専門職） 肉体的にも精神的にも<u>ストレス</u>がかかりそうだから（男性／営業職） <u>暑さ・寒さ</u>など、働く環境が過酷そうだから（女性／一般事務等） 歳をとると<u>立ち仕事</u>などきついため（男性／総務・人事・経理） <u>体力</u>に自信がない（女性／総務・人事・経理）

	<ul style="list-style-type: none"> 前職が鉄道会社だったが、2度と<u>お客様対応</u>が発生するような業務にはつきたくないと思った（女性／一般事務等） 接客業のイメージが強く、<u>カスハラが多そう</u>で抵抗がある（女性／一般事務等） あまり頭を使わないイメージがあるため<u>やりがいを感じられなさそう</u>（女性／営業職） 公共交通機関で通勤できる範囲に制限がかかることが予想され、<u>ペーパードライバー</u>の自分には向かないと感じる（女性／経営・企画） もともとノンデスクワークをしていて、<u>安い賃金・不規則な休み・体力的に何歳まで働けるかわからない不安</u>があった（女性／営業職）
--	--

【興味がない】50代・60代（抜粋）	
現状維持・リタイア志向	<ul style="list-style-type: none"> 経済的にそこまでして<u>働く必要はない</u>（男性／営業職） もう69歳であり大きな<u>変化は望まない</u>（男性／総務・人事・経理） <u>現状維持</u>を希望しているから（男性／総務・人事・経理） 新しいことに<u>挑戦する気はない</u>（男性／事務系専門職） 65歳には<u>引退したい</u>（男性／営業職） そのときに応じて考えるから（男性／営業職） 将来のことは<u>わからない</u>（男性／技術系専門職） <u>現在の働き方（完全在宅勤務）に満足</u>しているから（男性／一般事務等） 経験もないし、デスクワークでも十分ニーズがあるだけの<u>トレーニングをしている</u>（男性／総務・人事・経理） 自分の<u>スキルと人脈に自信</u>があり、今のままの生活を続けたい（男性／経営・企画） デスクワークでまだまだやらなきゃいけない仕事があるので、<u>AI導入が難しい業務内容</u>なので（女性／技術系専門職）
イメージできない	<ul style="list-style-type: none"> 経験がなく、働く<u>イメージがわからない</u>（男性／総務・人事・経理） <u>なんとなく興味がわからない</u>（女性／一般事務等） 今と異なるので<u>漠然とした不安</u>（男性／営業職） 自分が<u>できる仕事があるか不安</u>、年とともに体力的な問題があるため（男性／経営・企画）
具体的な理由	<ul style="list-style-type: none"> 今までの<u>スキルが使えない</u>のでもったいない（男性／事務系専門職） 賃金は<u>知的労働で得たい</u>（男性／総務・人事・経理） <u>誰でもできる</u>ような職種はしたくない（女性／経営・企画） いまさら肉体労働などできない。生む<u>付加価値が低い</u>（男性／経営・企画） 現状、<u>働きに見合った報酬</u>が得られていない職種が多いから（男性／営業職） いいように<u>搾取</u>されているように感じるので（男性／営業職） <u>身体を動かす</u>ことが好きではない（男性／営業職） 年齢的に<u>体力に自信がない</u>から（男性／技術系専門職） 以前ノンデスクワークだったが<u>大変だった</u>（女性／技術系専門職） <u>体力がない</u>から。<u>人と接する</u>仕事が苦手だから（女性／一般事務等） 体力がないので介護職や清掃、レジなどは無理だと思う。1時間から4時間ぐらいの<u>短時間</u>なら、人間関係などがしんどくても多少がまんできる（女性／その他） <u>大変そう</u>（男性／技術系専門職） 花粉症や虫に刺されやすいため、<u>外で仕事をするのには抵抗</u>がある（女性／一般事務等） 持病により<u>医師からストップ</u>されているので（男性／その他）

《調査概要》

調査期間	2024年10月
調査対象	<p>①スクリーニング調査…職業が「経営者・役員、会社員」の調査対象地域に住む20～69歳の男女を対象に実施</p> <p>②本調査…スクリーニング調査で職業が「会社・団体の役員、会社員・団体職員」、職種が「管理的職業、専門的・技術的職業、事務的職業、営業職業」、在籍するオフィスが「首都圏（1都3県）、大阪市、名古屋市、福岡市」、住まいが「首都圏（1都3県）、岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、福岡県、佐賀県」、現在の主に働いている場所が「オフィス（事務所）、自宅」と回答した人</p>
有効回答数	4,738人 ※在籍するオフィスの所在地により割付している (首都圏：2,060人、大阪市：1,030人、名古屋市：515人、福岡市：515人、札幌市：309人、仙台市：309人)
調査地域	首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）、岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、福岡県、佐賀県
調査方法	インターネット調査

レポート内のグラフに関して

・構成比（%）は、小数点第2位を四捨五入しているため内訳の合計が100%にならない場合がある。

本レポートに関するお問い合わせ

ザイマックス不動産総合研究所

<https://soken.xymax.co.jp> | E-MAIL: info-rei@xymax.co.jp